

令和4年度 加藤学園高等学校 自己評価表(結果)

加藤学園高等学校長
加藤学園高等学校関係者評価委員会委員長

加藤瑠美子
尾崎 庸夫

学校教育目標

建学の精神である校訓「至誠」は人間の最も大切な心構えであり、創立以来不変の教育理念として継承されている。
教育は、知育・徳育・体育の調和のとれた育成にあるが、徳育の最高目標として、「至誠…まごころを尽くす」を掲げ、近代的知性にあわせて、誠実で品位ある人づくりを目指す。

今年度の重点目標

ア 生徒一人ひとりを大切にし、豊かな心を育てる
エ 基本的生活習慣の徹底

イ 保護者・生徒が安心・満足できる学校づくり
オ 校友会活動への積極的参加、文武両道を目指す

ウ 生徒の希望に沿った進路指導
カ 国際理解教育の推進

領域	ね ら い	評価項目	達成目標	自己 評価	成果及び改善点	外部 評価	学校関係者からの意見
徳育	建学の精神の実践	目標を踏まえた学習活動を実施し、指導と一体化した評価を行う	・挨拶の励行と瞑想の徹底 ・清掃指導の充実 ・ボランティア活動の実施 ・教室内外の環境整備	B	・入学後に挨拶指導を実施しているため、年度の当初は元気良く挨拶ができていたが、徐々に挨拶ができなくなってしまう。そのために挨拶強化の日(週のはじめ)を設定しているが、マスク着用の影響もあるのか、徹底するのが難しい面もある。 ・担任による清掃指導をしているが、行き届かない部分がある。 ・新型コロナウイルス感染症対策の為にボランティア活動を実施していないが、来年度は実施する方向で計画している。	A	・コロナ禍で徳育の魅力が十分に発揮されなかったのは残念である。 ・正門前で挨拶をしている生徒がいて、伝統が引き継がれていて嬉しい。 ・100周年に向けて、「至誠」の精神が続いているのは素晴らしいと思う。 ・マナー教育は、概ねしっかりと成されている。 ・生徒主体の活動を積極的に取り入れるとよい。 ・いつ来ても生徒の挨拶は素晴らしい。
校友会	校友会活動への積極的参加	校友会活動を活性化させる	・生徒の自立性、規律性、人間性、社会性の向上に努める ・心身の鍛錬に励み、相互の信頼関係を構築する ・校友会活動に積極的に参加するように促す	A	・日常生活において、挨拶の徹底や校則の遵守など、人間性や社会性を高めるための指導を行っている。 ・柔道部: 全国高校総体 男子団体第3位 全国高校総体 個人 81kg級第3位 100kg超級第3位 ・バドミントン部: 全国高校総体 男子シングルス 男子ダブルス 女子ダブルス 出場 全国高校選抜大会 男子団体 個人 出場決定 ・野球部:秋季東海地区大会 ベスト4 ・陸上競技部:東海総体 女子ハンマー投 出場 ・チアリーダー部:全国高校ダンスドリル選手権大会 トニー賞 ・女子ソフトテニス部:東海総体 個人 出場 ・空手道部:東海高校選手権大会 男子3人制団体組手 出場 ・総合部:東海選抜大会 フェンシング 第3位 全国高校スキー大会 スラローム・ジャイアントスラローム 優勝 ・吹奏楽部:全国高校総文祭 マーチングフリースタイル部門出場決定 ・囲碁・将棋部:東海地区選手権大会 女子団体4位 全国高校総文祭 囲碁部門 出場決定 ・書道部:県書道連盟書初展 県知事賞 ・軽音楽部:軽音コンテスト中部大会 奨励賞 ベストギタリスト賞 以上のように、運動部・文化部ともに実績を残した。	A	・文武両道が具現化されている。 ・運動部だけでなく文化部の活躍も目覚ましい。 ・部活動での挨拶は徹底していて良い。 ・この良い流れを維持できるようにしてほしい。 ・加藤学園が益々世間に広がっている。生徒や先生方の努力は素晴らしい。 ・新聞等で加藤学園の活躍をよく目にし、とても嬉しいと思う。 ・毎年続けて結果を出している部活動が多く、喜ばしいことである。また、新たに加わった部活動については、今後継続していけるようにしてほしい。
学校安全	安全管理の充実	防災訓練の実施と安全管理の充実を図る	・防災訓練の定期的実施 ・安全管理マニュアルの確認 ・防災避難用設備の改善	B	・防災訓練(8月)・防災講座(11月・1年)を実施し、生徒の防災に対する意識向上に努めている。 ・安全管理マニュアルを確認し、緊急時の対応が迅速にできるようにしている。 ・地域防災訓練(12月)への参加を促すが、期末試験の直前であるため生徒の参加数は伸び悩んでいる。	B	・自治会として防災訓練への参加など非常に感謝している。 ・この項目に関する保護者の評価が低いので、学年通信等を利用して保護者への情報伝達を工夫するとよい。 ・防災体験活動などを取り入れてみるとよい。

領域	ね ら い	評価項目	達成目標	自己 評価	成果及び改善点	外部 評価	学校関係者からの意見
教科指導	基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実	授業改善の推進を図る	・生徒一人ひとりの能力を引き出す授業を展開する ・教科の研鑽に努める	B	・1年生は新課程ということで、教科書が改訂されたり、観点別評価が導入されたりと多くの変更点があった。そのために研修会等を実施したが、まだまだ課題点もあるため、引き続き研修していく必要がある。 ・「授業の創意工夫をしているか」という教員へのアンケートに対する回答結果から分かるように、授業の創意工夫が不足していると考えられる。新時代に対応した授業スタイルを各教科で研究し、授業改善を進める必要性がある。	B	・生徒と共に課題を解決すると良い。 ・社会の変化に対応した授業を実施できるように研修を進めてほしい。 ・授業改善に向け、お互いの授業を気軽に見学できるようにするなどの工夫をすることも必要である。
		個に応じたきめ細かな指導を行う	・適切な副教材を積極的に活用し、基礎学力を定着させる ・英検・漢検・情報処理検定等の資格取得にチャレンジする	B	・Classiやスタディサプリ等のデジタルコンテンツの活用を積極的に実施し、学習時間の管理や模擬試験に向けた取り組みを実施した。 ・副教材を活用し、基礎学力の定着を目指しているが、教員の指導がマンネリ化している部分がある。時代に合わせた新しい指導方法等の研修会に参加するなどしていきたい。 ・検定試験については、英検(全学年)や情報処理検定(2年)を全員受検とし、昨年度よりも多くの生徒が資格取得できた。また、漢字検定や数学検定・歴史検定・世界遺産検定・ニュース検定等の受検も呼び掛け、学年単位で受検するなど多くの資格を取得できるようにしている。英検指導は、英語科を中心として取り組んでいる。	B	・iPadを活用して学校外でも生徒と教員のやり取りができるようになり安心できる。 ・保護者としてはClassiでの全体把握は難しい面もある。 ・ICTに振り回されず、日々の授業の充実を大切にしてほしい。 ・先生方が進んで改善しようと考え、実現している様子が分かる。 ・個に応じたきめ細やかな指導の実施に感謝している。
教資職質員向の上	教職員の資質・能力の向上	校内研修の充実を図る	・公開授業を実施する ・研究授業を実施する ・職員研修を実施する ・私学人として誇りをもち、生徒の見本となる節度ある言動・服装を常に意識する	B	・公開授業は申込制とし、1学期は在校生の保護者、2学期は中学生とその保護者を対象として実施し、多くの方に来校していただいた。また、新コースの模擬授業においては、外部講師による授業を展開するなど工夫し、生徒も新鮮な気持ちで授業に臨んだ。来年度は、中学生とその保護者対象の公開授業を1回増やす計画をしている。 ・研究授業は、教科内で行い多くの意見交換をした。 ・校内研修においては、4月は観点別評価について、8月はカウンセリングについて、12月は小論文や面接指導についての職員研修会を実施した。	A	・先生方は生徒と真剣に向き合っている。 ・先生方は着実に研修を進めている。授業改善のための研修がさらに実施できるとよい。 ・先生方が資質向上を意識し、努力している様子が伺える。
進路指導	進学・就職へ向けての指導体制の確立	生徒の進学・就職希望の実現を図る	・始業前・放課後の補習と個別指導の実施。 ・長期休暇中の補習の実施。 ・各種検定・資格取得に積極的に取り組む。 ・特進部と進学部の一部は、一般受験に挑戦し、県内の4大学を含む国公立大学30名以上、早慶上理、GMARCIH、関関同立に40名以上の合格を目指す。 ・校内進学相談会を効果的に運用する。 ・長期休暇中の教員の外部講習への参加。	A	・校内進学相談会はほぼ対面での実施となり、62校が参加。生徒の進学に対する意識も変わり、教員にとって学校を知る良い機会であった。 ・共通テスト直前にコロナに感染した生徒もいたが、無事志望者は受験することができた。昨年度よりも文系・理系ともに平均点がアップし、全国的に強気な出願傾向であった。大学志望者減少で競争緩和と言われているが、首都圏上位校はそれなりに実力をつけないと合格に繋がらないと感じる。今年度も私大・国公立個別対策はiPadを併用しての指導となった。 ・国公立大学の合格(現役)21名 お茶の水女子・千葉・静岡・山形・富山(2)・山梨・茨城・横浜市立・東京都立・静岡県立(7)・都留文科・長野・長野県立・釧路公立 ・難関・準難関私立大学の合格(現役) 早稲田・東京理科(2)・明治(6)・青山学院(5)・立教(2)・中央(10)・法政(7)・関西・立命館(3)・日本女子(2)・東京女子(2)・明治学院(8)・國學院大學(10)など76名合格 ・看護ガイダンスは10回実施し、医療人としての心構え、面接の受け方の講義を受け、実際の入試に役立った。 ・特進部若手教員中心に予備校主催の教員向け研修に対面及びオンラインにて参加。生徒の個別指導に活かした。	A	・コロナ禍前は学校と保護者が非常に密な関わりがあったが、コロナ禍のため学校との関わりが少なく残念であった。しかし、生徒に対しては親身に指導してくれている。 ・子供の希望する進路に進むことができた。 ・自分の進路目標を叶えている生徒が殆どであることは素晴らしい。 ・入学時から3年後の進路を考える指導のため、目標をもって高校生活を送っている生徒が多い。 ・毎年の合格状況に素晴らしい進歩がみられる。 ・進学だけでなく、就職も良い結果を出している。きめ細かな指導のおかげである。

領域	ね ら い	評価項目	達成目標	自己 評価	成果及び改善点	外部 評価	学校関係者からの意見
生徒指導	生徒の人間力と加藤学園プライドの育成	・規範意識の育成 ・礼儀・マナー・モラルの育成 ・基本的生活習慣の確立	・校則、特別指導、自転車マナー指導など、生徒が本校の校風を理解し、規律正しい生活を送るための、規範意識の育成。 ・挨拶や言葉遣い、公共の場でのマナーやモラルなど、「人間力」の育成。特にマスク着用で不充分になっている挨拶の徹底に力を入れる。 ・コロナ禍で崩れ気味の生活習慣(遅刻など)を正していく。	B	・昨年に比べ、問題行動は52件から23件と半減している。また、自転車マナー違反キップの交付数や苦情も減少した。生徒もルールは分かっているが違反しているため、監視の目は今後も緩めることなく、「守ることが当然」の意識から「習慣」にさせていきたい。 ・マスクエチケットの指導も3年間続き、マスクルールも設けて根気強く指導してきた。校外でのマスクルールに対する苦情も、昨年に比べほとんどなかったが、弊害として挨拶の声が出しにくい生徒も増加し悩まされた。今後はマスクを外す生活の中、本校の良さでもある挨拶ができる校風を取り戻したい。 ・2学期進路決定の3年生に遅刻や欠席が目立った。学年のモチベーションの持たせ方に工夫が必要であった。	B	・コロナ禍のため行事等が少なく、生徒の授業以外の様子を観察する機会が減っているが、生徒を正しく理解し指導していく必要がある。 ・マスク指導は徹底しており、登下校時も必ずマスクをしている。 ・生徒主体の活動を生徒指導の面においても取り入れ、自浄作用を重視した流れを創り出していくとよい。 ・厳しい社会変化の中、先生方はよく努力されていると感じられる。
	保護者や地域住民から信頼される安全・安心な学校づくり	・いじめ防止教育 ・防犯教育 ・情報リテラシー教育	・いじめ対策委員会(毎月)での情報共有といじめや嫌がらせの未然防止、早期発見に努める。 ・金品や自転車の盗難が発生しにくい環境整備と、生徒の自己防衛意識の向上。 ・SNSへの不適切画像の投稿や、他人への誹謗中傷、iPadの使い方など、ルールに基づいた適切な使用方法を理解させる。	B	・全職員の高いアンテナと情報共有により、生徒間のトラブルにも早期発見、対応できた。また、心の相談室との連携も適切であった。 ・進学コース1年において、金銭の盗難やスマートフォンの盗難が発生した。その都度調査や訓話も設け、貴重品管理対策も行ってきた。犯人が見つかっていないので今後2年間には要注意な学年である。 ・昨年よりは不適切画像の投稿は減少しているが、依然としてSNSを介しての問題行動の発覚は多い。情報リテラシー教育に合わせ、ネット依存の問題もテーマとし、R5年度は全学年で講座を組んでいる。	B	・考える力をつけるために、朝礼や終礼で自分のことを発表する場を設けるとよい。 ・問題行動に対しては、再発防止に努めるしかない。SNSに関しても同様である。 ・生徒の意見交換の場を設けて、生徒が自ら考えることを積み重ねていくしかない。 ・社会が複雑になり、先生方の協力や共通理解が益々必要になっているように思われる。 ・起こってしまったことは残念であるが、再発防止に努めてほしい。
国際理解教育	国際理解教育の充実	国際理解教育の充実を図る	コロナ禍における校内英語研修の充実	B	・本年度も新型コロナウイルス感染症対策の為、海外への修学旅行や短期留学は中止した。 ・校内英語研修の充実を図り、2つのプログラム(EnglishdaysとSummer English Session)を実施した。 Englishdays 特進2年生 α 特進1年生 特進1年生 Summer English Session 希望者 受講した生徒は、英語力を向上させるだけでなく、異文化に触れたり、異なる見方や考え方があることを直接知る良い機会となった。	B	・海外留学は子供の成長にとって大きなものとなり得るので、来年度はカナダやセブへの留学を実施できるようにした方がよい。 ・留学生を受け入れることも検討してみるとよい。 ・再開に向けて新たなプログラム開発をするなど、発想の転換も必要である。 ・海外研修の費用面が心配である。